新居浜港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画　概要版
（令和5年3月）

1. 新居浜港等の特徴

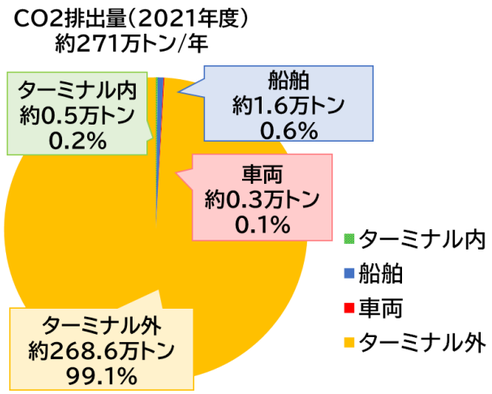
- 新居浜港は愛媛県新居浜市に位置する重要港湾
- 専用岸壁を主体とした臨海コンビナートの広がる本港地区と公共岸壁を主体とした東港地区で形成

2.新居浜港CNP形成計画における基本的な事項

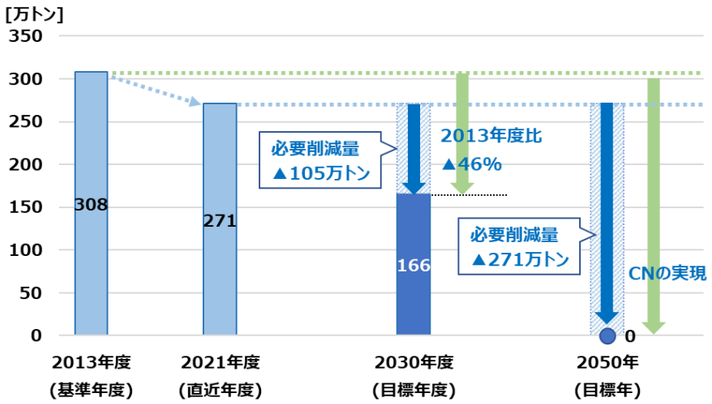
CNP形成に向けた方針	**(1)水素・燃料アンモニア等のサプライチェーンの拠点としての受入環境の整備** ・将来の水素・アンモニア需要増に対応した受入環境や、サプライチェーンの段階的拡張の検討 **(2)港湾地域の面的・効率的な脱炭素化** ・立地企業との協力により、削減目標達成に向けた8つの取組（後述）を推進
目標年次	2030年度及び2050年
対象範囲	新居浜港及び東予港東港地区における以下の活動を対象 ①ターミナル内　②ターミナルを出入りする船舶・車両　③ターミナル外（発電所・工場・倉庫 等） ※ 必要に応じ、複数の港湾にまたがる企業間及び港湾管理者間の連携についても検討
計画策定及び推進体制、進捗管理	• 新居浜港カーボンニュートラルポート（CNP）推進協議会の意見を踏まえ、新居浜港の港湾管理者である新居浜港務局が策定 • 令和5年度以降に「港湾脱炭素化推進計画」として見直しを予定 • 推進体制、進捗管理については、今後、新居浜港CNP推進協議会において検討

3. 温室効果ガス排出量の推計　4. 温室効果ガスの削減目標及び削減計画

- CO2排出量は、主に発電所における発電量の減少や発電効率の向上等により基準年度から12%の減少
- ターミナル外の排出量が約99%を占めるが、LNG火力発電の稼働開始や、工場の燃料転換などの取組が進んでおり、今後大幅な排出量削減が期待



新居浜港等のCO2排出量



CO2排出量の推移及び削減イメージ

＜削減目標＞

2030年度　2013年度比 46%削減（2021年度から約105万トン削減）
2050年　　カーボンニュートラルの実現（約271万トン削減）

＜目標達成に向けた8つの取組＞

① LNGの普及拡大
② 水素・アンモニア・バイオマス等の利用拡大と受入環境整備
③ 火力発電所等における低・脱炭素化の取組の推進
④ 船舶における低・脱炭素化
⑤ 荷役機械、車両の低・脱炭素化
⑥ 水素ステーションの導入
⑦ 陸上電源の導入
⑧ 港湾工事の低・脱炭素化等

5. 水素・燃料アンモニア等供給目標及び供給計画

- 水素・アンモニア等の需要ポテンシャルを踏まえ、アンモニアの受入を中心とした供給拠点形成を検討

新居浜港等の水素・アンモニア需要ポテンシャル及び供給施設の整備イメージ

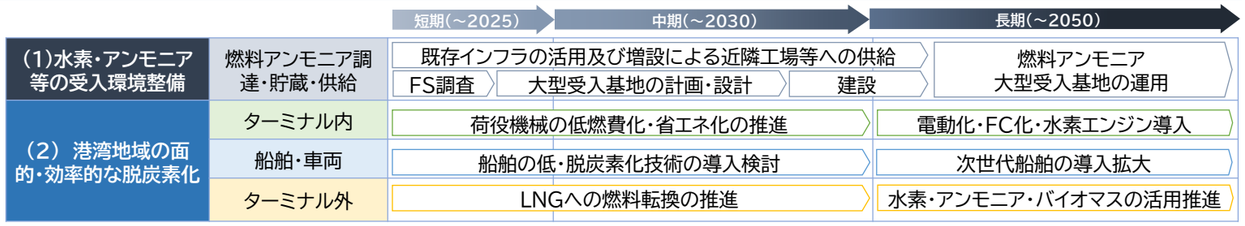
2030年代前半	水素：約1.0万トン アンモニア：約21万トン ※削減目標達成に必要なポテンシャル（原料利用分含む）	**短・中期：既存のインフラの活用** ➢ 既設岸壁のアンモニア受入岸壁への改良 ➢ 既存貯蔵施設におけるタンク増設
2050年	全量を水素に転換した場合：約26万トン 全量をアンモニアに転換した場合：約178万トン ※燃料使用量の全量を転換した場合のポテンシャル（原料利用分含む）	**長期：新たなアンモニア受入基地の整備** ➢ 大型外航船が入港可能な受入施設の整備 ➢ アンモニア貯蔵設備の整備

6. 港湾・産業立地競争力の向上に向けた方策

次の取組を通じ、国際競争力の強化や、新たな産業立地や投資を呼び込む港湾を目指す

- 港湾ターミナルのカーボンニュートラル化による港湾利用の拡大
- 次世代エネルギー用燃料受入供給拠点整備等による港湾利用の拡大
- 事業活動の脱炭素化に資する環境整備による立地事業所の競争力強化
- 港湾における制度設計の動向を踏まえた施策の展開
- カーボンリサイクル・ケミカルリサイクル関連の産業立地の促進
- その他カーボンニュートラル関連産業立地の促進

7. ロードマップ　8. CNP形成のイメージ図



CNP形成に向けたロードマップ（※主要な取組の抜粋）

※ 新居浜港等におけるCNP形成のイメージ図は、将来需要や今後の事業性検討等の実施状況を踏まえ、適宜見直しを図るものとする

新居浜港等におけるCNP形成のイメージ図（長期：2050年）